

13020 学習心理学Ⅱ Psychology of Learning II		2 年次～ 後期 2 単位	
担当者	伏見 陽児	履修可能学科	E Pe Pc C W F
		関 連 資 格	
サブタイトル	教え方と子どもの理解2		
授業内容 ・ ねらい	毎日毎日教師は授業をしている。子どもたちがよくわかってくれる場合もあるし、そうでない場合もある。子どもたちが興味をもってくれる場合もあるし、そうでない場合もある。このような経験を生かしながら、また他のすぐれた授業にも学びながら、私たちは教師としての力をつけ、自分の授業づくりを豊かなものにしていかななくてはならない。 この講義ではおもに小学校の教科学習場面をとりあげ、当該学習を有効に援助できるような教授条件・教授原則を検討したい。その際、教科学習心理学の実験データの提示にとどまらず、可能な限り授業実践例を紹介していきたい。 学習心理学Iでは、大枠としての教授条件・教授原則を紹介したが、ここではもっと具体場面に即した教授原則が扱われるだろう。		
授業計画	おおよそ以下の順に話を進める。 01.はじめに 02.授業の2種類の面白さ 03.実験装置の大きさと学習効果 04.教材の劇化効果 05.VTR視聴 06.工作的発問・工作的課題の効果 07.操作的発問・操作的定義の効果 08.対比的説明・対比的発問の効果 09.ひとけ・おのれつけの漂う発問や教示 10.VTR視聴 11.提示図表の構成について 12.提示数値の加工について 13.教授学習プロセスとしての検証法 14.教師の科学教育観と子どもの反応 15.まとめ		
教科書 参考書	参) 伏見陽児著『心理実験で語る授業作りのヒント』（北大路書房） 参) 授業を考える教育心理学者の会著『いじめられた知識からのメッセージ』（北大路書房）		
評価方法	ほとんど毎回課されるミニレポートの提出を前提とした上で、学期末テスト成績によって評価する。		
事前準備学習 履修条件等	参考書はあらかじめ購入する必要はない。講義内容に興味を持ったら購入して読んでほしい。学習心理学Iを受講した上で履修してもらえたらうれしい。		